

台湾統一地方選挙が総統選挙に与える影響

門間 理良 地域研究部中国研究室長

NIDS コメンタリー

第 91 号 2019 年 1 月 16 日

はじめに

民進党が大敗北を喫した統一地方選挙は、2020 年 1 月に実施されると見られている台湾の総統選挙にどのような影響を与えるのだろうか。この分析を行う際に焦点となってくるのは、「各党から誰が出馬するのか」、「どのような問題を争点とするのか」である。台湾の総統選挙は、法律で定められている選挙運動期間より実質的にはかなり前倒しされて開始される。

1. 総統選挙の概要

ここであまり一般では知られていない総統選挙がどのようなものか概要を記しておく。正確な規定は「総統副総統選挙罷免法」(1995 年 8 月制定公布。2017 年 4 月に最新改正公布)に基づく。任期 4 年で連続 2 期まで。なお、1996 年に初の総統民選が実施されるまでは、国民大会代表(国会議員に相当)による選挙で任期 6 年の総統と副総統が選出されており、1990 年には李登輝が総統に選ばれている。

○有権者：台湾本島と周辺の離島、澎湖諸島、金門島とその周辺、馬祖列島(以後、台湾と表記)の人民で満 20 歳以上。台湾に連続して 6 カ月以上居住している者、あるいはかつて台湾に 6 カ月以上居住し、現在は国外にいるが有効な台湾パスポートを保持し、規定する期間内に有権者登録を済ませてある者。

○立候補者：台湾に継続して 6 カ月以上継続して居住し、かつ 15 年以上選挙権を持つ 40 歳以上の者。国籍を回復した者、帰化した者、大陸地区の人民、香港・マカオの居民で許可を得て台湾に居住する者

は候補者になれず。

○立候補の要件：政党推薦(直近の国政選挙で得票率 5%以上が条件)あるいは有権者の署名推薦(直近の立法委員選挙における有権者数の 1.5%以上を集めることが条件)をクリアした総統候補・副総統候補がペアで立候補できる。現役軍人、選挙事務関係者、外国国籍を保持する者は立候補不可。中央選挙委員会への候補者登録以後、投票日前までに候補者が死亡した場合は、選挙は停止し改めて日程を定める。立候補したペアは 1500 万台湾元(日本円で約 5379 万円)を保証金として納入(得票が有権者総数の 5%に達しなければ没収)。

○選挙期間：投票日直前の日を含め 28 日間(午前 7 時から午後 10 時まで)

○選挙結果：比較第 1 位が当選。得票が同数の場合は、30 日以内に再投票。最高有効得票数と次点有効得票数が 0.3%以内の場合、次点の候補者は再集計を求めることができる。

2. 各党の情勢

国民党、民進党ともに概ね 2019 年 6 月くらいまでには党公認の総統候補を決定し、その総統候補がペアとなって戦う副総統候補を指名するという流れになっている。各党の総統候補が確定した時点で実質的な総統選挙が始まることになる。

(1) 国民党

総統選挙までのこれからの約 1 年間、実施される選挙はせいぜい立法委員の補欠選挙であり、大規模な選挙は行われぬ。そのため、総統選挙までは今

次選挙での勢いがベースとなって進行していく。今次選挙に勝利して氣勢の上がる国民党だが、内部的には一枚岩になれず波乱含みの様相を呈している。もし、国民党が今次選挙で惨敗を喫していれば、次期総統選挙も見込み薄として、出馬を望む者は多くはなかったと思われる。当初から劣勢が見込まれていた 2016 年総統選挙の時は、国民党の中でも総統候補の有力者と見られていた朱立倫、王金平が様子見を決めて出馬表明をしなかった中で、明確な統一派だった洪秀柱が名乗り出て一時は公認総統候補と認定された。だが、全く勝ち目がないために当時党主席だった朱立倫が半ば責任を取る形で出馬し、そのバタバタの中で国民党は敗北した経緯がある。ところが、今次選挙では国民党が有利な状況が生まれつつあるとの認識が 2018 年夏ごろから広まっていたが、事実として国民党は大勝し 2020 年の総統選挙でも勝てる可能性が大いに高まったことで、党内の有力者がこぞって出馬への名乗りをあげ始めている。

その中であって、本来であれば党主席である呉敦義が今次選挙を勝利に導いたリーダーとして総統選挙の党公認候補になるという流れができあがるはずだが、2019 年 1 月初旬の状況では、呉敦義の党主席としての地位は維持されているが、総統候補としてはまったくと言ってよいほど声望が高まっていない。この状況に呉は焦りと不快感を抱いているようだが如何ともしがたい。呉は今後、自分が今次選挙を勝利に導いたのが自分であり、自分こそが国民党の総統候補としてふさわしい人物であるというアピールを行い、周囲から推薦される形に持っていきたいところである。呉敦義は今次選挙での投票に感謝するお礼参りを各地で開始し、アピールに余念がない¹。なお、日本では上記行為は公職選挙法第 178 条で禁止されているが、台湾では認められている。

朱立倫は前回と打って変わって新北市長を退任した 2018 年 12 月 25 日に総統選挙への出馬を宣言した²。新北市長も連続 2 期で退任ということもあり、公職任期を全うした現在、次のステップとして

総統選出馬を目指すというある意味で綺麗な形を作り上げている。また、朱は 2014 年の新北市長再選時は苦戦したものの、台湾で最大の票田である新北市で直近 2 度当選を決めている実績は集票力の点で実績を示している。現職総統として初の総統民選に挑んだ李登輝を除く 3 人のうち陳水扁と馬英九はともに台北市長の経験者であり、地方とはいえ首長の経験があった。朱立倫も桃園県長と新北市長の経験があり、中央においては行政院副院長も務めたことがある。国民党内で出馬の意思があると見られている人物の中で最も人気が高い上に、総統選挙の時に 58 歳という年齢も有利である。国民党の公認総統候補として最右翼と見てよいだろう。

馬英九は回顧録を出版したり、2018 年 7 月 27 日に馬英九文教基金会を成立させたりしていたが、これは来る総統選挙への布石と受け止められていた³。12 月 28 日になって、基金会の事務責任者として総統時代に重用した蕭旭岑をあてたことで、国民党公認候補獲得に向けて本格的に動き始めたと考えてよいだろう⁴。ただし、法的な問題はないとはいえ、すでに 2 期 8 年の総統経験者が再出馬することの是非を問う声はあるし、新鮮さに欠ける面は否定できない。

王金平も今次選挙では国民党の勝利に大きく貢献したとして地元の高雄市のみならず台湾各地でお礼参りをを行っているほか、2019 年 1 月には著作を発表して存在感を醸し出している。王は前回の立法委員選挙において比例名簿第 1 位とされて当選している。国民党の比例区選出立法委員の指名規定によれば、比例区で選出された立法委員は 1 期（4 年）のみとされ、党への特殊な貢献がある人物についてはさらに 1 期を務めることができるとされている。王にこの規定を適用するか否かについては、総統選に向けた党内での指名争い如何によることになろう。ただし王の高い年齢（総統選投票時に 78 歳）は総統選に出馬するにしても立法委員選に出馬するにしても、かなり大きな足枷になるだろう。また、王は立法院長時代に馬英九総統とは犬猿の仲であったことが知られており、今後も党内の公認総統

候補の指名争いで互いに牽制し合うことになるだろう。

(2) 民進党

民進党は 2016 年の総統選挙では蔡英文が党主席として選挙に挑み、大勝を収めている。しかし、今次地方選挙で敗北した蔡は党主席を辞したため、2019 年 1 月 6 日に主席選挙が実施されることになった。同選挙には今回の地方首長選挙で勝利した鄭文燦桃園市長、林右昌基隆市長（蔡の党主席辞任後、代理主席に就任）、敗北した林佳龍（前台中市市長）など、蔡英文より若い世代の実力者たちが派閥を越えて共同推薦した卓榮泰総統府秘書長（59 歳）と台湾民意基金会の游盈隆董事長（理事長に相当。62 歳）で争われた⁵。構図としては、現政権をベースとしつつも改革志向の卓と、反蔡英文派の声を代表する形の游との争いである⁶。

その結果、卓榮泰が主席に当選した。任期は次期総統が就任する 2020 年 5 月までである。党主席選挙では卓が得票率 72.6%を集めて当選した背景には、派閥を超えた結束の象徴として卓をかつぎたいという党員の意思の表れと考えられる。ただし、今回の党主席選挙の投票率は異例の低さとも言える 16.9%に過ぎなかった。これは 8 割以上の党員が危機感を有していないというよりも、諦めの境地にあることを示しているものかもしれない。これは民進党にとって真に危機的な状況であると言えよう。

卓は党勢の立て直しと総統選挙に向けた体制作りを行う重要な任務がある。最も大切なことは今次選挙に敗北した理由の的確な総括と民進党の新たな方向性を示すことである。この点につき、東京外国語大学の小笠原欣幸准教授は林右昌の「今後、我々は民進党の過去の台湾の民主に対する貢献を提起するべきではない。台湾は既に 3 度政権交代を経験し、民進党も 2 度政権を取った。台湾人民は既に民進党に借りはない。民進党は未来の台湾に対する貢献によって、台湾人民の支持と賛同を勝ち取るべきだ」という発言に注目して、民進党の敗戦に関して党内から出された根本的な問題提起であると

指摘している⁷。

蔡英文政権は 2016 年 5 月に成立して以来、移行期正義を前面に押し出して国民党の財政基盤を奪ったり過去の政策の清算しようとしたりしてきた。それらは台湾民衆に受け入れられたものもあったが、ドラスチックな進め方は国民党支持でも民進党支持でもない台湾の多数を占める中間選挙民に訴求する力に欠けていた。今後の民進党は、無党派有権者層を力強く引き付ける政策を最大限に押し出していく必要があると思われる。その一方で、民進党支持基盤の中には必ずしも党員ではないコアな独立派の勢力も依然として一定程度存在する。彼らは蔡英文の「現状維持」を基調とした政策は自分たちを裏切っているものと捉えている。そのため、独立派団体からは次の総統選挙における蔡英文の不出馬を求める声明を出している⁸。

3. 総統選挙の展望

(1) 1996 年以降の総統選挙

1996 年に総統民選が初実施されて以降、政党別で見ると 1996 年は国民党が、2000 年と 2004 年は民進党が、2008 年と 2012 年は国民党が、2016 年には民進党がそれぞれ政権を取っている。2 期目を目指した総統は確実に取れているという現職有利が働いていたのが台湾の総統選挙だった。しかしながら、2020 年には 4 年で総統が交代する可能性が生まれている。**グラフ 1（文末参照）**から明らかなのは、統一地方選挙での総得票数が上回っている政党が、次の総統選挙で勝利を収めるケースが 5 回中 4 回を占めている。例外は 2009 年および 10 年の地方首長選挙と 2012 年の総統選挙の時だけである。それから類推すると 2020 年の総統選挙では国民党が有利となる。

また、総統選挙における投票率は**グラフ 2（文末参照）**の通りである。依然として高い投票率ではあるが、2000 年を頂点として漸減傾向にある。突発事態の発生などで投票率が上がらない限り、次回選挙では 65%をやや下回ると予測される。総統民選も 6 回を数え、台湾民衆の中に定着したことで、投票へ

の情熱がいくぶん低下したことが漸減の理由だと推測される。次回に実際に投票するのは 1230 万人程度だろう。ちなみに台湾と同様全有権者の直接投票で決するフランス大統領選の 2017 年の決選投票時の投票率は 74.56%だった⁹。

(2) 2020 年総統選挙の展望

ここで重要となってくるのは、各党の組み合わせがどのようなものになるのかである。と言うのも、各党候補者の組み合わせ如何で予想される得票が大きく変化すると考えられているからである。本稿執筆時点で総統選出馬の可能性のある人物は下記の通りである。

【民進党】蔡英文、頼清徳（行政院長）

【国民党】呉敦義、朱立倫、馬英九、王金平

【無党派】柯文哲（台北市長）、張善政（馬英九政権最後の行政院長）

地方選挙後のいくつかの民意調査結果を紹介すると以下の通りである。実際の総統選挙まではまだ 1 年余りあるため、今回の結果で予測することはできないが、おおまかな傾向は把握できる。

〈新台湾国策智库〉2018 年 12 月 20 日発表¹⁰

☆ 以下の候補者が対戦する場合の支持率

- ① 蔡英文 (41.4%)、呉敦義 (29.4%)
- ② 蔡英文 (27.8%)、朱立倫 (53.6%)
- ③ 頼清徳 (60.3%)、呉敦義 (19.9%)
- ④ 頼清徳 (41.0%)、朱立倫 (43.8%)
- ⑤ 蔡英文 (19.1%)、呉敦義 (14.1%)、柯文哲 (53.3%)
- ⑥ 蔡英文 (17.2%)、朱立倫 (32.5%)、柯文哲 (41.1%)
- ⑦ 頼清徳 (34.4%)、呉敦義 (11.9%)、柯文哲 (43.5%)
- ⑧ 頼清徳 (28.2%)、朱立倫 (29.5%)、柯文哲 (34.3%)

〈TVBS〉2018 年 12 月 14 日発表¹¹

☆ 以下の候補者が対戦する場合の支持率

- ① 蔡英文 (23%)、朱立倫 (50%)
- ② 蔡英文 (26%)、王金平 (40%)
- ③ 蔡英文 (29%)、馬英九 (37%)
- ④ 蔡英文 (34%)、呉敦義 (26%)

- ⑤ 頼清徳 (39%)、朱立倫 (40%)
- ⑥ 頼清徳 (45%)、馬英九 (31%)
- ⑦ 頼清徳 (47%)、王金平 (27%)
- ⑧ 頼清徳 (53%)、呉敦義 (18%)

これら 2 つの調査結果から明らかなことは、国民党は呉敦義が出馬した場合、かなり厳しい選挙を強いられるが、朱立倫が出馬した場合は対戦相手が蔡にせよ頼にせよ、互角以上の勝負が可能である。他方民進党からすると、蔡英文が出馬した場合勝てる相手は呉敦義だけであり、少しでも勝機を見出したのであれば、頼清徳が出馬する必要がある。だが、これも柯文哲が出馬するとなると状況は一転する。民進党、国民党ともに柯文哲の後塵を拝す結果になる可能性がある。柯文哲とすれば、2000 年の総統選挙時の宋楚瑜的な立場（有権者の署名推薦）で出馬し、民進党と国民党の支持層からそれぞれ票を奪い、仮に過半数を取れなくても比較第 1 位での当選を狙うという作戦を立てるだろう。

おわりに

今次選挙の結果および現時点での民意調査結果からすると、2020 年の総統選挙では、国民党は呉敦義が出馬すると、支持率が低迷している蔡英文にすら負ける可能性がある。その事情を考えると朱立倫が出馬すると考えるのが妥当である。

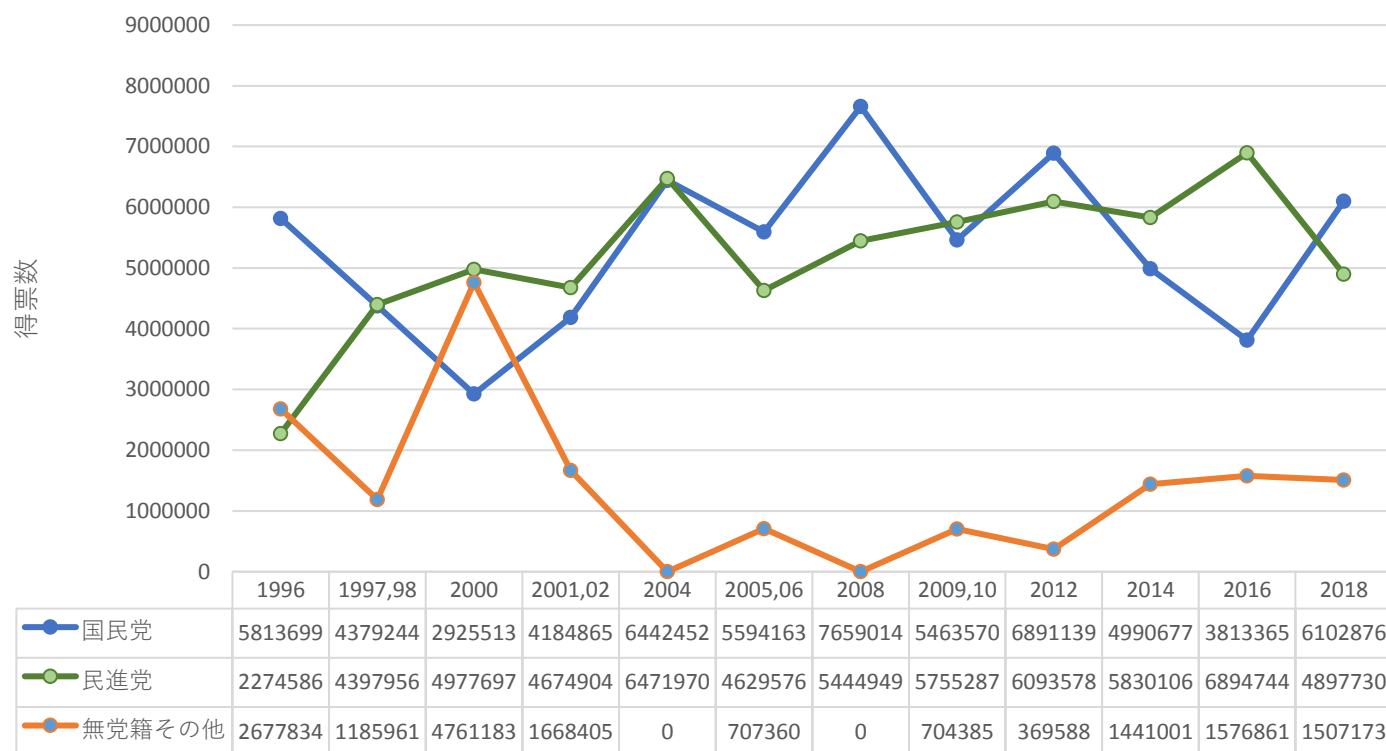
だが、柯文哲が有権者の署名を集めて出馬した場合は、柯の当選の可能性は高まる。我々は有権者の民進党や国民党という既成政党に対する不信感や飽きが根底にあることに留意する必要があるだろう。だが、柯文哲には立法院における政党基盤がない。もちろん、柯文哲は出馬するとなれば各党所属の現職立法委員を引き抜きしたり新人を擁立したりして、一定の規模は確保するだろうが、立法院内では少数にとどまることになる。柯文哲は総統に当選したとしても、立法府から十分な支持を得られずに苦勞することになるだろう。

蔡英文総統自身は 2018 年 12 月 28 日に総統公邸で開かれたメディアとの懇談会で多くの改革は挫

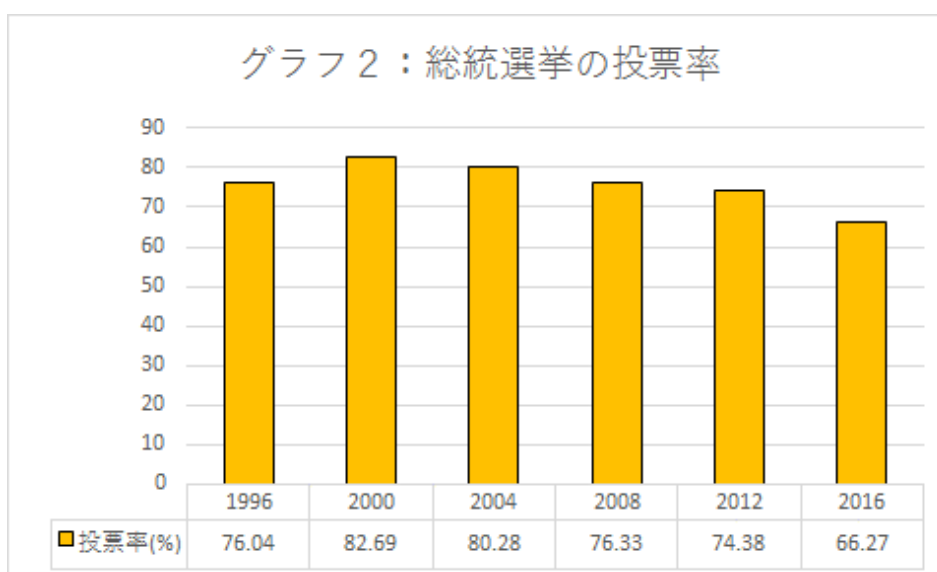
折したが、改革の項目は退縮していない、原発廃止の目標は不変だ、移行期正義も退縮させないが改めて調整するなど述べて、2 期目に向けて意欲をにじませている¹²。だが、これらの政策が台湾有権者に対して強いアピールとなっていない点に思いを致さないと、2020 年の総統選挙は民進党にとって非常に厳しい状況となると思われる

(2019 年 1 月 6 日脱稿)

グラフ 1：政党別得票数の推移



グラフ 2：総統選挙の投票率



- 1 「搶 2020 大位 馬吳朱王互別苗頭」『自由時報 (電子版)』2018 年 12 月 17 日。
- 2 「朱立倫宣布參選 2020 總統 媒体三問馬英九未獲回應」『自由時報 (電子版)』速報、2018 年 12 月 25 日。
- 3 「成立基金会被解讀再戰 2020 馬英九：基金会超越選舉」『自由時報 (電子版)』2018 年 7 月 27 日。
- 4 「蕭旭岑出任馬英九基金会執行長」『自由時報 (電子版)』2018 年 12 月 28 日。
- 5 「民進黨主席選 中堅層代表の卓榮泰氏らが届け出／台湾」『フォーカス台湾』2018 年 12 月 14 日。
- 6 「新聞眼／反英、保英… 党内対府院的信任投票」『聯合新聞網』2018 年 12 月 30 日。
- 7 「代理党主席林右昌：人民已經不欠民進黨」『聯合新聞網』2018 年 12 月 4 日及び小笠原欣幸 Facebook、2018 年 12 月 5 日を参照。

- 8 「独派永社社長：小英辛苦了『2020 請你休息』」『自由時報 (電子版)』2018 年 12 月 27 日。
- 9 在日フランス大使館ウェブサイトを参照 (2018 年 12 月 24 日閲覧)。
- 10 同智库は陳水扁や独立派の大老である辜寬敏らが 2010 年に設立したシンクタンク。執行長を陳水扁の息子である陳致中が務めている。データは「九合一選後最新政局情形與 2020 總統大選選情評估 民意調查發布記者會」2018 年 12 月 20 日。
- 11 1993 年に台湾初の衛星放送局として放送開始。親会社は香港の TVB。TVBS が行う民意調査結果は国民党が有利に出がちだとされる。データは「TVBS 民調/民進黨主席補選與 2020 總統民調」2018 年 12 月 14 日。
- 12 「改革不退縮 總統：司改將處理核心問題」『自由時報 (電子版)』2018 年 12 月 29 日。

プロフィール

profile

地域研究部

中国研究室

室長 門間 理良

専門分野：中国・台湾の政治・軍事、中台関係、東アジアの国際関係、中国人民解放軍史

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111 (内線 29171)

F A X：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp/>